

「知識」

勉強の出来る人のことを「知識」がある人ということがあるでしょう。この「知識」という言葉は仏教から来たものです。インドの古い言葉で「ミトラ」といい、本来は善き友達・友人のことをいいます。そこから自分のことをよく知っている人・親友へと変わり、仏教に縁を結ばせてくれる人、正しく教え導いてくれる師匠・指導者を指すようになりました。

日本人の識字率は100%に近いと言われています。江戸時代の終わり頃には既に高い水準にあったようです。子供を大切にし、寺子屋などに地域の子供が通っていました。読み・書き

そろばん
・算盤が生活を向上させ、子供の成長に大事だと思っている人が多かったからだと推測されます。

現代の日本でも、正しく導いてくださる学校の先生がいるからこそ、勉強の知識が身につく、また知識本来の意味の友人が育まれていくのではないかと思います。気の置けない友人はありがたく、心やすいものです。仏教に縁を結ばせてくれる僧侶と皆さんの仲が、それぞれの友人のようになれば、それもまたありがたいことです。

「喝」

日曜日の朝、テレビ番組のスポーツコーナーに、元野球選手が出ています。良いと思うことには「天晴れ」と言い、悪いと「喝だ」と言い番組を盛り上げます。

『 禅のこころ -曹洞宗- 』

ここで使われる「喝」は仏教の言葉から来ています。ご存じの方も多いと思いますが、元々は中国の唐の時代に、禅宗の修行僧を叱咤激励するために発せられる音や叫び声で、言葉では表現することが難しい心の働きを表すときや、迷っている修行者を導くときに使ったものと言われていました。

「カツを入れる」という言葉がありますが、本来は今より良くなるようにと思いを込めて相手の成長を導く為の言葉だと考えられます。ですから、闇雲に使う言葉では無く、ここぞという時に一つ喝を入れる。それによって見えなかった道が見えてくることもあるでしょう。

喝を入れる人である指導者と喝を受ける人の信頼関係がなければ成り立たない言葉であることは間違いないかと思われます。ただ、何故か分からないけど怒鳴られた、と思うならば意味は無いのです。

— 終 —